

公益財団法人名勝依水園・寧楽美術館

平成29年度事業報告

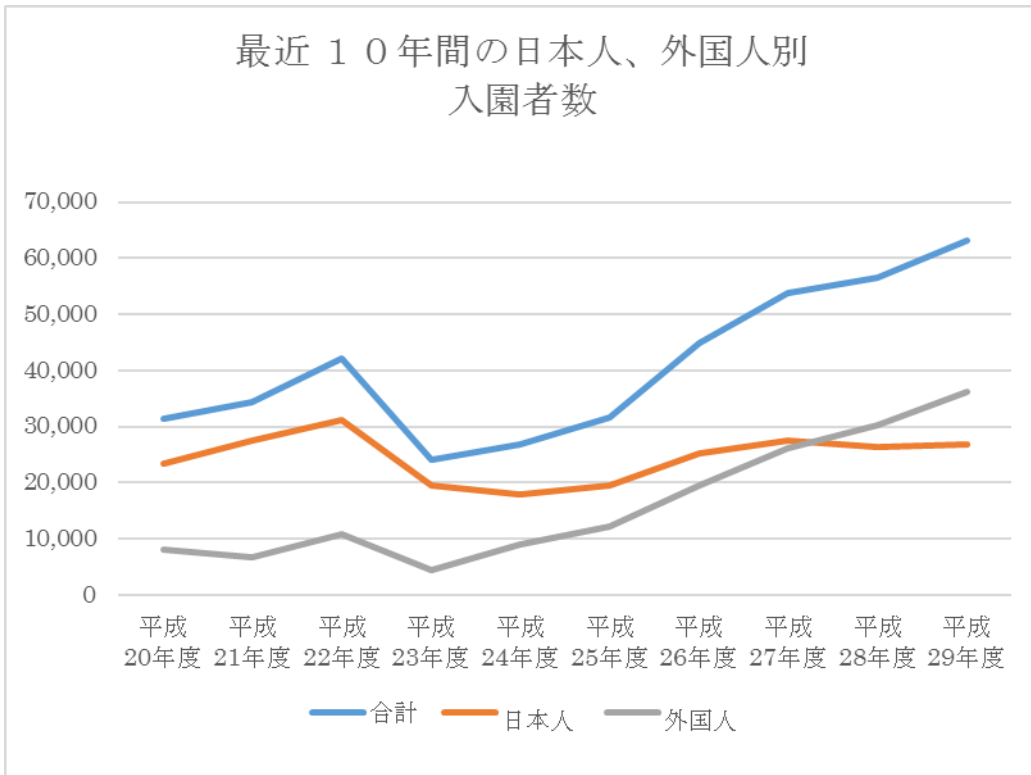
1. 公益目的事業の状況

(1) 入園者数について

庭園事業および美術館事業の最近3年間の入園者数および入園料売上は以下の表の通りである。また最近10年間の日本人、外国人別年間入園者数は図の通りである。

最近3年間の入園者数と入園料売上

		平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	対前年度 比
入 園 者 数 (人)	一般 (@900)	43,769	46,314	51,026	110 %
	大学生 (@810)	2,826	2,479	2,875	116 %
	中・高生 (@500)	1,938	2,171	2,326	107 %
	小学生 (@300)	821	925	1,168	126 %
	特別 (@500)	1,232	1,146	1,275	111 %
	団体 (@810)	3,137	3,460	4,525	131 %
	合計	53,723	56,495	63,195	112 %
	外国人 (内数)	26,239	30,232	36,288	120 %
入園料売上 (円)		45,331,050	47,658,550	53,462,140	112 %



平成29年度の入園者数は、前年度比で112%と増加した。そのうち外国人は前年度比120%と、大きな伸びを示している。昨年度は前年度比115%とやや伸びが鈍化した。平成29年度はまた伸びは拡大した。このうち日本人は前年度比102%とほぼ横ばいであるが、昨年度の前年度比96%からすると復活したと言える。

外国人の全入園者に占める割合が、今年度は57%となり、昨年度初めて54%と半数を超えたのが、さらに増加した。月別に見ると11月だけは日本人が64%と約2/3を占めるが、他の月はすべて外国人が過半数である。特に4、8、10月は70%を超える。

入園料売り上げも入園者数に準じて112%となった。

入園者数に対して政府の統計等と比較、検討した結果は以下の通りである。

日本政府観光局の訪日外客数

http://www.into.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html

によると、下表の通り平成29年度（4～3月）の訪日外国人数は、平成28年度に対して120%となっており、依水園入園外国人数の伸びの120%と一致している。

訪日外国人数と依水園入園外国人数との比較(人)

	H27年度	H28年度	H29年度	H29/H28
訪日外国人数	21,358,974	24,823,289	29,772,576	120 %
依水園入園外国人数	26,239	30,232	36,288	120 %

日本政府観光局の訪日外客数他より

(2) 美術館の展示について

美術館は、以下の企画展および特別展示他を実施した。

①企画展

上期

- ・平成29年4月1日(土)～平成29年9月10日(日)

テーマ：「いのちあるよろこび」

山本梅逸の花鳥図屏風始め、実在の動物から想像上の神獣までを描く60点を展示。

こどもにも楽しめるように、展示品の動物部分の写真だけを集めて紹介するパネル「"どうぶつ"たちに出会えたかな?」を作成し、展示品鑑賞に誘導した。

・特別陳列

- ・平成29年4月1日(土)～4月14日(日)

重要文化財「亦復一楽帖」第八図「把盃卓立」(はいをとってたくりっす)
田能村竹田(たのむらちくでん)筆

下期

- ・平成29年10月1日(日)～平成30年3月11日(日)

テーマ：出版記念展「寧楽美術館の印章 方寸にあふれる美」

下記④に述べる書籍の出版を記念して、当館収蔵品の印章、印章の歴史、コレクター等について紹介展示。

・特別陳列

- ・平成29年11月1日(水)～11月14日(火)

重要文化財「亦復一楽帖」第九図「一睡眠之間」(ひとねむりのあいだ)
田能村竹田(たのむらちくでん)筆

②依水園開園記念日特別展示

昨年同様の内容を以下の通り展示した。

日時：平成29年6月1日

場所：美術館の軒下外廊下

展示内容：依水園の歴史、関わってきた人たちの写真のパネル

③収蔵品の貸し出し

従来当美術館は、他美術館との美術品の貸し借りに積極的ではなかったが、昨年度より他美術館への貸出に取り組んでいる。今年度は、奈良県立美術館の伝統工芸企画展「赤膚焼・奈良一刀彫・奈良漆器・・・悠久の美と技」(1月27日～3月25日)に奥田木白「赤膚焼 蟬飾付唐茄子形花器」、森川杜園「一刀彫人形融」を貸出した。また、平成30年度秋の3館連携展示では、東洋陶磁美術館、大和文華館への高麗青磁の貸出を準備中である。

④印章に関する書籍の発行

当館収蔵品の印章は、中国古印の日本における五大コレクションのひとつとされる。これに関する、久米雅雄氏（大阪芸術大学客員教授）の研究をもとに、当館の印章を紹介する「寧楽美術館の印章 方寸にあふれる美」（寧楽美術館美術館刊 B5版カラー190頁（思文閣出版）を平成29年10月14日に出版した。初版1,000部のうち出版元の思文閣出版の引き取り分500部は完売され、当財団引き取り分の500部（販売価格3,500円）は、贈呈94部、販売318部（10月40部、11月82部、12月25部、1月71部、2月44部、3月56部）と好調にさばけ、3月末在庫88部となった。

（3）広報宣伝、営業企画活動等について

①開園記念日

6月1日の開園記念日を割引料金とする企画を今年度も実施した。また昨年度に続き、この日に当財団敷地内茶室の三秀亭で中谷 美風煎茶美風流四世家元が煎茶席を開き、入園客に煎茶道を体験して頂くイベントを企画した。これは三秀亭が本来煎茶用の茶室であったことに基づくものである。

②プレスリリース

美術館企画展、依水園開園記念日に関してプレスリリースを実施した。

③リーフレット作成

企画展および上記書籍の出版に関してリーフレット（A4両面）を作成し市内観光案内所、ホテル等に配布を依頼した。

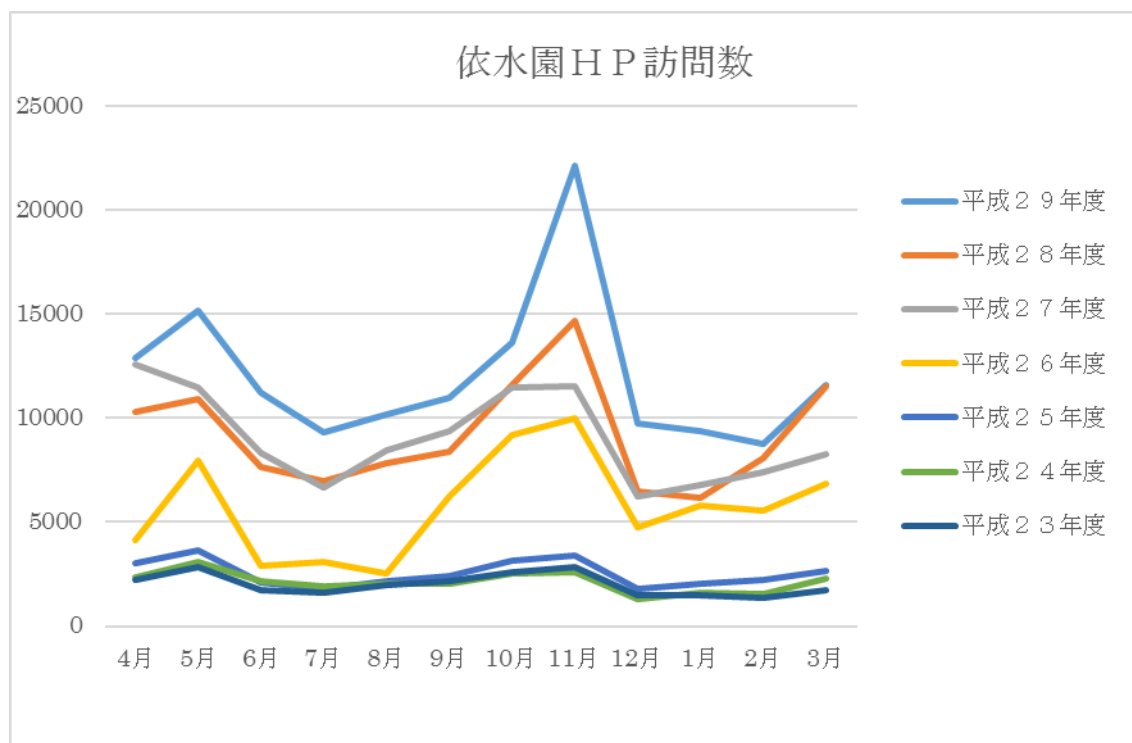
④奈良県立高等学校への協力

奈良県立磯城野高等学校環境デザイン科で、造園を学ぶ高校生の郷土学習への協力を継続した。具体的にはH27年度より高校生がすすめているココニワアプリ（庭園内各所の木札をスマホカメラで読み取ることで、各所の紹介説明が表示されるスマホアプリ）の作成に関して、依水園の場の提供と紹介コンテンツの内容の確認に協力した。このアプリは平成29年10月より機能更新しながらリリースされておりスマホで利用可能となっている。

⑤ホームページ

平成26年10月に、英語対応、スマートフォン対応を目的としてホームページの改定を行って以降アクセス数は大幅に増加してきたが、今年度は、年間合計144,919件のアクセスがあり、前年度比131%と、大きく増加した。7年間の月別訪問数は、以下のグラフの通りである。

ホームページの花だよりの更新は44回（前年度51回）、また合計115枚（前年度137枚）の写真更新を行った。



⑥トリップアドバイザー (<https://www.tripadvisor.jp>)

昨年に引き続き、平成29年5月に世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」の「エクセレンス認証 2017(Certificate of Excellence)」を受賞した(星4つ半で昨年と同じ)。その証明書は、掲示板と受付に掲示している。

平成30年6月2日現在で、旅行者のコメントでの評価は、391件中、とても良い252、良い88、普通45、悪い5、とても悪い1、平均4.5で、昨年と同じである。奈良の観光地での順位は、奈良県猿沢ビジターセンター&イン、東大寺、奈良公園、唐招提寺に次ぐ5位(昨年度7位)となり、春日大社、東大寺二月堂、を抜いた。コメントの言語は英語220、日本語73、中国語(繁)47、中国語(簡)47、フランス語21、スペイン語19、イタリア語17、他39(ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、ドイツ語、インドネシア語、オランダ語、デンマーク語、対語、チェコ語、韓国語)で、大きな比率は変わらないが、昨年度に続き中国語(繁、簡とも)の増加が大きい(全体23%増、中国語各42%増)。

⑦「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデン」のランキング

米国の日本庭園専門誌「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデン」の2017年の国内日本庭園ランキングは、14位となった。2010年より2016年まで、41位、40位、20位、20位、6位、8位、7位とこの3年は連続ベスト10に入っていたが、今回そこから外れた。

平成30年5月19日(土)にこの雑誌の編集者ダグラス夫妻が約30人の団体で

来園し、そのとき規則が多すぎるとして、以下の趣旨のコメントをされた。

・道幅を広げるか、入場数制限で一方通行をやめる（ダグラス氏（米国人））か、又は先に後園あとから前園のルートにする（ダグラス氏夫人（日本人））。

・入園料を高く（1,200円）し、入園者の質を高め、禁煙表示不要とする。

⑧「奈良工芸の粹」展（奈良新聞社主催）への展示場所の提供

奈良を代表する伝統工芸の各界の匠の作品の展示、即売を行う「奈良工芸の粹」展が、3月14日（水）から3月18日（日）まで開催され、これに開催場所を有償で提供した。当財団としては、奈良工芸の発展を支援することも目的としている。

展覧会への入場者は昨年第1回の約3,000人から1,278人（うち招待客365人）に大幅減。これは昨年開催の名勝大乗院庭園文化館と今西書院（分割開催）と異なり今回の会場の依水園は、展覧会の入場料以外に会場への入場料が必要であったため。依水園の一般入場客は、5日間で1,114人となり、昨年同期比473人増。平成31年3月も継続して場所を提供の見込みである。

⑨その他

昨年に引き続き、珠光茶会 開催期間中の2月7日（水）から2月11日（日）まで、通常は非公開の清秀庵・氷心亭の茶室見学会を実施した（2,500円、解説および入園、入館、お抹茶お菓子付き）。参加人数は5日間で47人。

（4）庭園整備について

平成15年度から実施されてきた国庫補助事業としての庭園整備事業は平成28年度で終了し、平成29年度以降は当面実施されない。

平成29年度は、日常的な庭園の維持に加えて、手すり、関守竹、垣の設営、流れ修理、園路修理・高木強剪定等を行ったため庭園維持管理費が大幅に増加した。（前年度8,584千円、今年度20,178千円）

平成27年度より10年間で9500万円を積み立てる予定の庭園整備特別準備預金については、平成27年度は、500万円、平成28年度は、800万円を積立済みであるが、平成29年度は、1000万円の予定を資金不足から500万円に減額して積み立てた。

（5）文化活動について

①依水園文化講演会

・第17回 平成29年5月13日（土）

「奈良から日本の喫茶文化は始まった～遣唐使が持ち帰った唐代のお茶～」

講師 中谷 美風氏（煎茶美風流四世家元）

開園記念日に三秀亭で煎茶席を設けることに先行して開催

・第18回 平成29年10月14日（土）

出版記念講演会「寧楽美術館美術館の印章 方寸にあふれる美」

講師 久米 雅雄氏（大阪芸術大学客員教授）

を開催した。

②庭園大研究会

当財団主催の事業として12年目を迎えた、庭師育成の「庭園大研究会」は講師牧岡一生氏（庭舎 MAKIOKA 代表）の講義、実習とお茶の実習による月例の講習会を約20名の受講者を対象に継続開催中である。

(2) 収益事業の状況

収益事業のうち飲食事業の今期の売上は12,446千円で、前期の11,670千円の106%となり、入園者の前年度比112%と比べると1/2の増加にとどまった。日本人入園客が、前年同期比102%と全体ほどは増加しなかったのが主な原因である。

平成29年度の飲食事業の売上、費用、損益はそれぞれ以下の通りであった。

収益(含む雑収益)	12,450千円(前年度11,806千円)	前年度比	105%
費用	12,711千円(前年度10,435千円)	前年度比	121%
損益	-260千円(前年度1,371千円)	前年度比	-

費用増、損益赤字の原因は、三秀亭受付の工事に1,474千円を要したことである。

不動産事業の貸家4軒のうち2軒は前年度までにすでに空き家になっていたが、残り2軒のうち1軒が平成29年12月に退去、最後の1軒が平成30年3月に退去した。平成6年の調停条項に基づき、立退料として5年分の家賃、それぞれ3,528千円、3,780千円、合計7,308千円を支払った。また館舎の1/2から全部が、不動産事業の資産となったため、館舎の減価償却費が2倍の1,623千円となった。これらから、損益は8,355千円の赤字となった。さまざまな規制があるなかで、今後4軒分の土地の活用法を検討する予定である。

(3) 庶務事項

1. 組織・人員等

1) 主要事項

なし

2) 人員（平成30年3月31日 現在）

理事 6名（うち常勤1名）

監事 2名（非常勤）

評議員 6名（非常勤）

職員 21名

2. 役員会

1) 評議員会

定時評議員会（平成29年6月27日 依水園会議室）

議題 ・平成28年度決算承認

・平成28年度事業報告

2) 理事会

第1回理事会（平成29年6月3日 依水園会議室）

議題 ・平成28年度事業報告および決算報告

・評議員会の招集

・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告

第2回理事会（平成30年2月20日 依水園会議室）

議題 ・平成30年度事業計画書案および収支予算書案並びに資金調達および重要な設備投資の見込み

・故中村 尚子氏の当財団への遺贈受入処理

・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告

以上